

Broaden your horizons ～さあ、視野を広げて!～

2月18～19日に実施された第108回薬剤師国家試験ですが、メディセレ自己採点システムの結果によると、平均点は前回より16.3点上昇の253.6点でした(345点満点)。これは出題形式が、「2つ選べ」よりも「1つ選べ」という選択問題が激増し、選択しやすかったためだと思います。また、過去問題からのアレンジが多く、奇問が少なかったこともあり、選択肢が絞れて答えやすくなったのでしょうか。

出題傾向としては、臨床を意識した問題が増えた印象です。具体的には▽処方・投与時間までが記載される内容▽添付文書の用法用量が記載され、そこから増量提案を考える問題▽処方箋を基に疾患を選ばせる問題▽複数疾患を持つ患者や複数薬物を服用している患者についての問題——などが増え、検査値情報や薬物動態パラメーターなどを読み取って解くなど、複合的な知識が必要となる問題が多数見受けられました。

日本における近代薬学の開祖・長井長義先生の記述や、褥瘡の好発部位であるためか全身骨格図が出て仙骨を聞かれたりと、学生にとっては驚く瞬間もあったと想像します。

メディセレでは、国家試験は正答率60%以上の問題を解ければ合格できると指導しています。そういう意味では、今回は正答率60%以上の問題が228問でしたが、今回は264問もあり、高得点を取りやすかったのではないかと思います。

メディセレスクール ファウンダー 児島 恵美子